

【日 時】 2007.2.3-4  
【県 名】 兵庫県  
【山 域】 扇ノ山  
          (上山高原)  
【ル ー ト】 海上--上山高原  
(泊)--小ズッコ---上山高原-  
--海上  
【メンバー】 石野・大塚・大本  
【装 備】 避難小屋泊  
          山スキーフル装備  
【天 候】 晴れ

年末以来の寒波が2月に入って  
やっときたので早速に日本海側の  
豪雪地帯の扇ノ山山域の上山高原  
に出かけた。

播但道から9号線に入ると、ス  
キーヤーとボーダーの車で混雑気  
味である、やはり「ここぞは」と雪  
好きの人間たちの思いは同じであ  
る。



上山高原

姫路を6時に出て海上村のどん詰まりに着いたのは10時を少し回っていた。車は昨年同様の所まで入ったが、完全に根雪になっていないので今日の好天で融けて明日の帰りは担ぎになるのでは・・・。



湿雪ラッセル

一泊装備のザックが肩に食い込む。小春日和に恵まれてシールが早々に雪下駄になり重雪湿雪のくるぶしラッセルで余計に疲れて足が進まない。周りの雑木類は普段なら雪の下にあるのだが、元気一杯に立ち上がって新芽をつけだしている。全国的に梅と桜が同時開花しているニュースが入るがホントにいつ開花してもいいような陽気である。



上山高原避難小屋

上山高原に入る頃には昼過ぎとな

るが、さすがに辺り一面真っ白な世界に風が吹き始めるとシャツ一枚では寒さが走る。山の斜面はやはりブッシュが目立ち全くに寝ていないので登って滑る意欲もなくなり、小屋前にスノーテーブル作りに体を暖める。スコップで雪ブロックを作るも1mも掘れば土が見えだした。

14時を回った所だが雪景色を見ながらの雪見酒と早々に腰を落ち着けた。小屋も昨年は冬季入り口の2階から入っていたが、今年は1階から出入り出来るほどである。



小屋内でカンバイ

夜には満月に照らし出された雪景色が静寂に包まれて時おり風が歌っている。小屋内は気温0°であるが、モンベル極薄夏用シュラフ7番でも暑いほどでぐっすり快眠できた。

4日

今日の天気予報も晴れだったが、ガスが降りて山並みが見えなくなっている。ゆっくり目の朝食をとり8時に小屋を出てまずは小ズッコまで



スノーテーブル



小ズッコ辺りは霧氷林



ブッシュに阻まれ撤退



小ズッコ避難小屋

行くことにする。昨夜は20cmほどの湿雪の降雪で再びボソ雪ラッセルである。ブッシュが多くて林道カットも出来ずに忠実に林道歩きである。小ズッコ小屋を過ぎた辺りから登山道も分からず強烈なブッシュに阻まれ始めたので、これでは帰りもスキーにならないと早々に退却する。

帰りはシールを外したいところだが、ボソボソ雪で板も走らないので林道までシールのまま降りる。林道からはシールを外し、来たトレースの中を忠実に手漕ぎスキーで小屋まで引き返しスノーテーブルで小休止。

高度200mも下がれば、やはり昨夜は雪ならず雨だったようで所々にアスファルトが見えて雪解けの春の形相である。今年の播州の山スキーはもう終わりかと痛感する景色であった。

まゝこんな年もあってもいいんじゃないか！と妙に納得するこの頃である。